

国語科問題（中学校第二学年）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

公園のそばのバス通りに出た。

人どおりの少ない歩道を、信也はゆっくり歩く。

ふと、公園に目をやった。

ブランコの向こうに、雪だるまが一つ作られてあった。

A

信也は足をとめた。

雪だるまなんて、久しぶりに見たような気がした。

信也は公園の中にはいった。

かたい土の上にうっすらと積もっている雪の上を、ゆっくり歩いて、

信也は雪だるまに近づいた。

そばまで行くと、けっこう大きな雪だるまだった。高さは信也の胸の

あたりまでもあった。

朝、登校する前に、小学生たちが作って行ったものらしい。大きな桜

の木かげなので解けないで、しゃんとしていた。

目とハナと口は、そこらにころがっていた空カンを埋めこんで作られて

いた。

少したれ目の雪だるまは、冬の寒い公園にあわないうような表情で、のん

きに笑っているみたいだった。

信也は前に立って、その雪だるまを見おろした。

じっとみつめた。

雪だるまは、笑い顔で信也を見つめ返した。

(……………)

ゆかいそうに座っている雪だるまを見ているうちに、いつのまにか信也の

表情はかたくなっていた。

B

そんな言葉が、きゆうに胸にわき出た。

なんだか、雪だるまが自分を見つめて笑っているかのように思えた。

最近、少しも勉強がはかどらず、自信を失ってしまったことや、きよ

うも期末テストがだめだった自分のことを、あざけているみたいだった。

信也の眼がけわしくなった。シンゾウの鼓動が高くなった。

信也はそっとあたりをうかがった。

まわりには、だれもいなかった。

また、雪だるまをみつめた。

しんぞうは、かなりはやい音をたてていた。

ゆっくり、信也の右足が前方にあがった。そして、雪だるまの顔面に伸び

ていった。

グツ。カンのへこむ音。

足が、雪だるまの顔面にめりこんだ。ズックの下で、空カンのはながぐに

やりとへし曲がり、雪の中に埋まった。両眼はそっぽをむいたようになり、

口は飛び出した。

のんきにしていた雪だるまが、おどろいたような顔で、信也を見つめた。

あわてて、信也は足をもどした。

雪だるまのみけんに、ズックの足あとがつき、ひたいが寄せられて、雪だ

るまはおこったようになった。

「うー」

信也は、低くうめいた。

背なかに、寒けがはしった。

② 恐怖からのがれるように、思わず信也は足をけりあげていた。

バシッ

雪が飛びちった。空カンが一つ、空へふっ飛んだ。

顔の半分を崩された雪だるまは、片眼だけで、信也をにらみあげた。

信也は、もうわけもわからず、狂ったように手足をふりまわした。げんこ

つや、ひじや、ひざや、つまさきが、大きな雪のかたまりにめちやくちやに、

ぶちあてられた。

ハアハアと、肩で息をつき、両手でだらりとさげて立ちつくした時の信也の前には、もう、雪だるまとしてのかげもかたちもなかった。くだけた雪だ

けが、あちこちに<sup>ウ</sup>ちらばっていた。

足のうらに、一つ、空カンが踏みつぶされているのに気がついて、信也はあわてて飛びのいた。

C

ぺちゃんこになっている空カンを、信也はじっと見つめた。

(横澤彰「雪だるま」偕成社 による。)

※1 ズック Ⅱ 厚手の布でできた運動ぐつ。

※2 あざけっている Ⅱ ばかにして笑っている。

① 文章中のア～ウのカタカナの部分に漢字で書きなさい。

② 「恐怖からのがれるように」とあるが、なぜ信也は恐怖を感じたのですか。その理由を、「雪だるま」という言葉を使って、二十字以内で答えなさい。(句読点を含む。)

③ 文章中の空欄A～Cに入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア A へえ。 B やっちまった… C なんて、そんなにしてくれるんだよ。

イ A へえ。 B なんて、そんなにしてくれるんだよ。 C やっちまった…

ウ A なんて、そんなにしてくれるんだよ。 B へえ。 C やっちまった…

エ A やっちまった… B へえ。 C なんて、そんなにしてくれるんだよ。

④ この文章の表現の特徴を説明したものととして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 比喩表現を多用し雪だるまの心情をくわしく描くことで、主人公のいらだちを強調している。

イ 繰り返し表現を何度も用いることで、ゆれ動く主人公の気持ちを分かりやすく表現している。

ウ 雪だるまの視点から見た主人公の心情の移り変わりを描くことで、緊迫感を高めている。

エ 擬音語を交えながら短い文で主人公の行動を描くことで、臨場感を高めている。

② 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

高名こうみやうの木登りと①いひしをのこ、人をおきてて、高き木に登らせて梢こずえを切らせしに、いと危あやふく見えしほどは言ふ事もなくて、おるときに軒丈のまたけばかりになりて、「②あやまちすな。心しておりよ」と言葉をかけ侍りしを、「かばかりになりては、飛びおるともおりなん。如何いかにかく言ふぞ」と申し侍りしかば、その事に候ふ。目くるめき、枝危えだあやふきほどは、おのれが恐れ侍れば申さず。あやまちは、やすき所になりて、必ず仕つかまる事に候ふといふ。あやしきげらふなれども、③聖人せいじんの戒いましめめにかなへり。鞞まじも、難むづかきところを蹴出して後、安く思えば、必ず落つと侍るやらん。

(「徒然草」より)

- ※1 人をおきてて……人を指図して
- ※2 目くるめき……目がくらんで
- ※3 下臈……教養のない者
- ※4 聖人の戒め……徳の高い人(人物の模範になる人)の教訓

⑤ 傍線①を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

⑥ 傍線②「」を言ったのはだれか。文中から六字で書き抜きなさい。

⑦ 傍線②を言った人物の会話部分がもう一か所あります。その言葉の初めと終わりを、それぞれ五字ずつ書き抜きなさい。

⑧ 傍線③「聖人せいじんの戒いましめめ」について適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

- ア 危あやないことには近づかないことだ。
- イ 物事には自信をもって取り組むべきだ。
- ウ 最後まで気を緩めることなく物事に取り組め。
- エ 難しいところを過ぎれば安心してよい。